

## 📷 卸売市場の初市式



📍 いわき市卸売市場

📅 1/5(月)



### ＼100キロを超える大型マグロが初せり／

新春恒例の初市式が行われ、水産物部、青果部、花き部および関連事業者の各売場にて、約470人が豊漁・豊作と商売繁盛を祈願しました。

鐘の合図とともに今年初となる競りが始まり、せり人や仲買人などの威勢の良い声が響く中、次々と競りが行われました。

この日、100キロを超える本マグロをはじめ、青果部の野菜や果物を乗せた「宝船」などが並び、早朝の市場は活気にあふれていました。

## 📷 令和8年成人式



📍 市内13会場

📅 1/11(日)



### ＼二十歳の誓いに2,338人が出席／

人生の節目を祝う成人式。本市では、法律上の成年年齢が18歳に引き下げられた後も、20歳を迎える方を対象に「成人式」を開催しています。

今年の対象者は2,967人と、昨年比で100人減少しましたが、約8割の2,338人が式典に参加しました。

晴れの日様子を市公式Instagram「pr.iwaki」でお届けしていますので、ぜひご覧ください。



## 写真が語る「いわき」の歴史 炭鉱を記憶する石炭・化石館

いわき地域学会 小宅幸一

昭和51（1976）年8月に常磐炭礦西部礦業所が閉山して、常磐炭田における約120年にわたる坑内採炭は終わりを告げました。

炭鉱関係者は、炭鉱の歴史を後世に遺そうと計画。その一方で、いわき市では博物館構想も持ち上がり、その6分野のなかに「石炭」が挙げられました。

しかし、石炭関係者はあくまでも個別の資料館建設にこだわります。地元温泉街にとっても観光誘客のためにもなることから、これを後押しします。昭和56（1981）年4月には、いわき市は自治省の進める「地域経済振興対策」推進地域に選ばれ、石炭資料館建設などについて、国の財政支援を受けられるようになり、常磐地区に建設されることが決まりました。

この際に、湯本温泉の活性化に資するには石炭資料館だけでは弱いと判断され、化石の宝庫いわきのPRを併せ持つよう、昭和57（1982）年7月に自治省の承認を得て「石炭」と「化石」の機能を併せ持った施設として常磐炭礦磐城礦業所跡地に建設することとなります。

オープンは昭和59（1984）年10月。現在は「ほるる」の愛称で、多くの観光客や地元民に親しまれています。



■写真1 常磐炭礦の専用鉄道向田線と生産施設  
〔昭和51（1976）年7月 須永秀夫氏撮影〕



■写真2 市石炭・化石館の開館 〔昭和59（1984）年10月 いわき市撮影〕